

望郷だより

むじゅたもんせ

社会福祉法人更生会
望洋の里広報誌

重度高齢者の延命処置について

現在、日本の借金は一千兆円を超え、今も増え続けている。また、社会保障費とリわけ医療・介護合わせて約五十兆円と発表されている。医療費の中でも高齢者医療費が大きな比重を占めていると思われる。特に、平均寿命と健康寿命の差は約十年あり、その間の医療・介護費が増えていることは間違いない。特養に於いても、重度者が増えており、最近では介護度四以上ないと入居も困難である。更に重度化に伴い、ほとんど寝たきり状態で経管栄養摂取者（鼻腔栄養や胃ろう）が増加している。北欧では、既に経管栄養対応は無くなっていると言われている。日本では、本人の意思に関わらずこのような延命処置が行われている。重度高齢者の真の幸せは何かを国全体で考える時が来ているのではないかと思う。



胃ろう

園長 中村 幸盛

合同レクリエーション大会

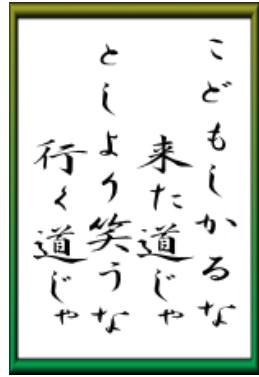
五月二十一日に望洋の里で合同レクリエーション大会が行われました。毎年入居者様、デイサービスご利用者様、合同で行っています。今年度も入居者様の真剣なプレー



優勝旗を手に笑顔で

が多く感動を与え、又素敵な笑顔を見せて下さいました。入居者の皆様も普段の生活とは違う活動に生き生きとした表情で競技をされていたように思います。今年のリオオリンピックにも負けず劣らずの盛り上がりとなり、入居者様の笑顔が金メダルに値すると思えました。又、地域の皆様やボランティアの皆様など多くの方々の参加もあり、誠にありがとうございました。今後も多くの入居者様が笑顔で生活できるよう努めて参りたいと思います。

主任生活相談員 大村 孝一



平成 28 年 10 月 1 日
再刊第 3 号
発行責任者
園長 中村幸盛

熊本震災地応援

介護老人福祉施設

平成二十三年の東日本大震災も復興半ばの平成二十八年四月十四日と十六日にそれぞれ震度七を観測した熊本地方、半年ほど過ぎようとした今でも余震が続いています。震災地の福祉施設においても、入居者の方はもちろん、近隣住民の方も避難されて来ており、施設のスタッフも含めた現地の方々のご苦勞は計り知れません。



木造家屋が倒壊した被災地の様子

五月の後半より、本格的に全国への福祉専門職の応援が要請され、望洋の里からの代表として、最も被害の大きい益城町の特別養護老人ホームに応援に行かせていただきました。

周囲の木造家屋の殆どが倒壊し、瓦礫の山と化している様子に言葉を失いました。応援者もテントに寝袋で夜を過ごしたりと、慣れない生活の中で、できる限りの応援をする中、自分たちの地域で同様の災害が起きた時の備えの大切さを実感しました。

副園長 有村 信治

楽しいデイサービス

通所介護事業所

デイサービスでは様々なレクリエーション活動に取り組んでいます。参加されるご利用者様が気軽に楽しめる内容に努めています。

毎年十月頃に南薩地区の高齢者福祉施設で構成されている「いぶすき地区老人福祉施設協議会」主催のレクリエーション大会に毎回参加して他施設のご利用者様と競技を通じて交流を深めています。



優勝カップを手に記念写真

昨年の参加施設は十一施設（約二百名）におよび開聞総合体育館にて盛大に開催されました。望洋の里も優秀な選手団を結成し第十五回大会に挑み見事二回目の優勝（一回目は第十二回大会）することができました。

主任生活相談員 西元一成

訪問介護のいろは

訪問介護事業所

介護保険制度下の訪問介護として「できること」は、大きく身体介護と生活援助に分かれています。今回は、その身体介護中の「自立生活支援のための見守りの援助」について書かせていただきます。

これは、利用者（要介護）の方とヘルパーが共に家事を行うなど、自立援助の視点で生活動作を支援することです。すべての生活場面と、その支援・介助に言えることですが、利用者の方には具体的にどのような動いていただくかを、都度声かけし、説明するようになっています。そうすることで、利用者の方も納得安心し、スムーズな動作が可能となります。



しかし、ただ単に「体を動かしていただく」のではなく、「こころを動かしていただく」ことがポイントです。そのためにはかねてからの利用者の方との関係作りが基本となります。声をかけ、その気になっていただけるような関係づくりから始めます。

サービス提供責任者 中村めぐみ

暮らしやすい地域を目指して

居宅介護支援事業所

先日、望洋の里の桜の木に桜の花が咲きました。季節外れですが、ほんわか心が和みます。こんな自然あふれる我が町でいつまでも暮らしたいものです。

「地域包括ケアシステム」という高齢者が住み慣れた地域で生活するためのサポート及びサービスを適切に受けられるよう、市区町村が中心となり、「住まい・医療・介護・生活支援・介護予防」の5つの要素を『包括的に』受けられる取り組みが進んでいます。これは、専門家のみならず、地域住民の方々にも、家の補助などをお願いする仕組みになっています。これを機に、皆さんも住み慣れた地域で、お互い助け合って暮らす方法を一緒に考えてみませんか？



住み慣れた地域で充実した日々を送れるように一人一人の高齢者に合わせて最適なサポートをしていくことができる私たちでありたいと考えます。お気軽にお立ち寄りください。

主任介護支援専門員 成元睦子

初めての防犯訓練

今年の七月二十六日、神奈川県相模原市の障がい者施設で、十九名が死傷する痛ましい事件を教訓に、全国の福祉施設において、不審者対応への改善が急がれています。

望洋の里では、十年ほど前に作成した不審者対応マニュアルはありましたが、今回の事件を教訓に、大幅にこれを見直し、不審者に対抗する道具として新たにサスマ



タを購入し、九月二十七日に南九州警察署 生活安全係の指導の下、模擬訓練を実施しました。大きな反省点として、職員はできるだけ建物内に居て安全を確保すること、

早期に警察へ連絡のこと等の指摘がありました。

訓練後に、二十名程の職員が集まり、不審者対応についての心構え、サスマタの取扱いについて、護身術の解説を受けました。いざという時に入居者と職員自身の安全が守れるよう、今後も継続して訓練したいと思えます。

副園長 有村 信治

ロードミラー清掃活動を行って

6月5日、親和会（職員親睦会）ボランティア活動の一環として中村・春向自治会のロードミラー清掃を行いました。

当日はあいにくの雨模様となり、参加者はそれぞれに雨がっぱ等を着用しての活



動となりました。勤務等の関係で参加者十二名と少人数の上、初めての試み

に当初戸惑いを感じましたが、タオル・洗剤・脚立を持参して、3グループに分かれて取り組み始める頃には、鏡磨きに夢中になっていました。普段はミラーの汚れや曇りなど気にも留めませんが、磨いてみると案外綺麗になるものです。通行車等の邪魔にならないように脚立を設置し、不安定な箇所はそれを下から支えて手早く磨き上げる。数をこなしていくうちに達成感が生じてきました。

今後、これを定例活動とし、地域との繋

書記 宿里 美和子

落雷と台風被害について

九月二十日未明に大隅半島に上陸し、垂水地区に大きな被害を出した他、錦江湾に大量の流木を輩出する等、鹿児島県本土にも大きな被害をもたらした台風十六号ですが、例年とは異なったコースで通過したうえ、強風であったため、望洋の里でも大きな被害が出ました。敷地内の杉の木や、職員全員で植樹した桜の木が倒れ、約一日半の停電により、外部との連絡は災害用電話回線を使用し、三つの発電機によって、電灯・介護用品と看護機器の駆動・井戸水の汲み上げ・浄化槽の汚水処理を賄い、入居者の皆様も職員もへとへとでした。

台風来鹿の約一週間前、九月十四日の朝には、近くの落雷により、電話機二台とパソコン一台が壊れる被害に遭ったばかりでした。



台風で倒れた桜の木

今後も想定外の災害がいつどこで起こるかわかりません。何があっても柔軟に対応できる体制を整えたいです。

事務長 椰木 俊徳

職員紹介

里中 弘見

職 種 特養介護員

入職日 平成二十八年四月十八日
ご挨拶 一日一日を大切に。ご利用者の皆様と笑顔で過ごしていきたいです。宜しくお願います。



小川 譲二

職 種 特養介護員

入職日 平成二十八年五月一日
ご挨拶 特養介護に従事して半年、毎日様々な体験をし、勉強になることばかりです。これから利用者様が楽しく過ごせるよう頑張ります。



五反田 まどか

職 種 特養管理栄養士

入職日 平成二十八年六月一日
ご挨拶 御利用者の食事管理を担当します。美味しく食べて頂けるよう努力していきます。



祝迫 淳子

職 種 通所看護兼機能訓練指導員

入職日 平成二十八年六月二十日
ご挨拶 利用者様が安心安全かつ健康に楽しく過ごしていただくけますよう頑張ります。



小川 牧代

職 種 特養介助員

入職日 平成二十八年八月一日
ご挨拶 何事も前向きに頑張りたいと思っています。



編集後記

今回の記事にもありましたように、私たちは、ここ半年で熊本大地震・台風十六号の被害を目の当たりにしました。

鹿児島県の多くの老人ホームでは、平成二十二年の奄美豪雨災害を契機に、BCP（大災害時の発生時でも絶対必要なサービスは提供しながらできる限り早期に事業を復帰する方法）の作成に取り組んでいます。決定事項が細部にわたり、完成はまだしていません。

また、熊本での障がい者や高齢者の問題も見て

きました。避難所では、食料配給の列に並べず人数分の食料をもらえない発達障がい者・トイレが狭くて使用できない重度の身体障がい者・集団生活が困難な精神障がい者・和式便器の使用



社会福祉法人 更生会 望洋の里

事業案内
 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
 短期入所生活介護 (含介護予防)
 通所介護 (含介護予防)
 訪問介護 (含介護予防)
 居宅介護支援

連絡先
 鹿児島県南九州市穎娃町牧之内3776-8・3769-1
 TEL: 0993-36-3075・3461 非常電話: 0993-36-2535
 FAX: 0993-36-3076・3461
 メール: bouyou@po3.synapse.ne.jp
 ホームページ: http://www3.synapse.ne.jp/bouyou



が困難な高齢者など、出来上がった仮設住宅では、出入口に段差があり移動困難で、小さなユニットバスは使えず入浴が困難な重度身体障がい者など。これらの方々は、周囲に遠慮してひっそりと倒壊寸前の自宅や車中泊に移り、避難者としては制度から外れてしまうのです。これを機会に、みんなに優しい制度に変えていきたいものです。